教職科目Ａ：　教育相談論
担当教員：相模健人

# WOWW アプローチを導入した授業研究

教育学部教育心理学教室・相模健人

Ⅰ．はじめに

筆者はこれまでSolution-Focused Approachの質問技法であるスケーリングクエスチョン（Scaling Question）を用いた授業研究を多く行ってきた。近年、Solution-Focused Approachの考えを用いて、学校現場に介入する手法としてWOWW（Working On What Works うまく行っていることに取り組む）アプローチが注目されている。WOWW アプローチは Berg,I.K.,Shilts,L.によると「クラスの教育の質に影響を与えるよう設計された革新的なプログラム」であり、教室のさまざまな改善に用いられている。そこで本研究では筆者が行う大学の授業において、WOWWアプローチを実践し、その導入の意義に関する学生の意見について KJ 法を用いて整理し、その意義について考えることを目的とする。WOWWアプローチではさまざまな手法があるが、本研究ではこの中の「クラスの成功スケール」をもとに、学生が受講態度について目標を定め、それにどれだけ近づいているところをティーチング・アシスタントがコンプリメント（ほめる、ねぎらう）してフィードバックし、それを聞いた学生が受講態度についてスケーリングする手法をとった。

Ⅱ．方法

１．授業について(平成 20 年度前期)

①授業名：教育相談論（授業者：相模健人）

②授業時間：前期は月曜 1 時限（午後 2 時 50 分～4 時 20 分）に行った。

③授業期間:前期は平成 17 年 4 月 14 日～7 月 21 日に行った。全 14 回である。

④受講登録者数：教育学部教員養成課程の学生を対象とし、登録者数は 129 名であった。

⑤講義教室：教育学部大講義室で行った。

２．授業目標の設定について

WOWWアプローチを行うにあたって、学生に授業態度についての目標設定をするために授業初回において「第１回講義アンケート」を行った。その中で「この講義でど『わざわざ講義をうけたかいがあった』と思えることが実現したら、あなたはどんな態度で授業を受けていますか？具体的、現実的にお書き下さい。」と学生に授業態度について書いてもらった。それを筆者が KJ 法を用いてまとめたものを、授業目標として学生に提示した。

３．WOWWアプローチについて

WOWWアプローチの実施については、２．で作成した授業目標に基づき、ティーチング・アシスタント（以下 TA）3 名が交代で担当した。TAは授業を観察し、授業の最後に時間を与えて学生にフィードバックを行った。それに基づき学生は「授業評価シート」に「今日の授業態度は目標と照らし合わせて、1 を『かけ離れている』、10 を『目標が達成されている』とするといくつでしたか？」といったスケーリングクエスチョンに答えることにより、授業態度の自己評価を行った。

４．学生の意見について

授業最終回において「最終授業評価シート」において、「授業内で行われた WOWW アプローチ（TA さんが授業内のよかったことを話すこと）はあなたの授業態度を改善することにどう役立ちましたか？また WOWW アプローチの感想をお書き下さい」の質問を行い、WOWWアプローチに関する意見を尋ねている。

５．結果の整理

４．で得られた学生の意見を KJ 法を用いて整理し、結果図を作成した。その文章化を考察としている。

Ⅲ．結果

学生の WOWW アプローチに関する意見を KJ 法を用いてまとめた。

Ⅳ．考察

KJ 法の文章化を主に考察として進めていく。

KJ 法全体の結果として、島はそれぞれ「初めは戸惑った」、「ＴＡさんが具体的によく見ている」、「WOWW アプローチへの興味」、「WOWW

アプローチの成果」、「WOWW アプローチの評価できない点」、「改善に向けて」に分かれた。順に見ていこう。
「初めは戸惑った」の島においては、WOWW アプローチ導入当初は、これまで経験のない授業形式であったため、戸惑いがあったと考えられる。この島と因果関係のある「ＴＡさんが具体的によく見ている」の島は「ＴＡさんがよく観察している」と「具体的に言ってくれた」の島に分かれている。「ＴＡさんがよく観察している」では、TA が目標に沿ってよくみていることが学生の戸惑いをほぐしていくのに役立ったと考えられる。
さらにこの島と相関関係にある「具体的に言ってくれた」では、TA が目標に合致した授業態度やその学生の席の位置などを特定してコンプリメントすることで、学生に授業態度についてふり返る機会になっていたと考える。
このように TA が具体的な手法を用いていることが、WOWW アプローチへの戸惑いを払拭させ、「WOWW アプローチへの興味」、「WOWW アプローチの成果」、「WOWW アプローチの評価できない点」といった具体的な評価に影響を及ぼしていると考える。
「WOWW アプローチへの興味」の結果については、「WOWW アプローチについて知りたい」の島や「WOWW アプローチの成果」の島に分かれている。「WOWW アプローチの成果」は、「ほめられてよかったこと」、「見られていることで授業が引き締まる」、「授業態度のよいところが分かった」、「自分の授業態度の反省、改善」に分かれている。「ほめられてよかったこと」の島ではまず「ほめられてうれしい」の島があり、WOWW アプローチの狙いに関しても理解されているようである。また自分のことでなくても、「ほめられることがよい」の島では、授業内で学生をコンプリメントする場面があることを評価している。このようなことから「ほめられて次もがんばろうと意欲が出た」の島に繋がり、授業意欲の向上に結びつくと考えられる。このように「ほめられてよかったこと」では学生の授業態度をコンプリメントすることの効果が十分に認められ、このことが WOWW アプローチの効果の一つと言える。他方、この島と相互関係があるのが「見られていることで授業が引き締まる」の島である。TA が授業を観察していることの効果が現れ、自らの授業態度を意識するように繋がっていったと考えられる。
「初めは戸惑った」の島にあるように、WOWW アプローチはこれまで学生が体験したことのないものであったにも関わらず、このような効果を大学生であっても生み出していることは特筆すべき事柄と考える。
このような WOWW アプローチの効果が「授業態度のよいところが分かった」の学生の意識に結びつく。この島は「どういった授業態度がよいか分かった」と「他の人の良いところが分かり、自分もそうしようと思った、参考になった」の島に分かれている。「どういった授業態度がよいか分かった」では、教室全体での評価が学生には役立っているようである。「他の人の良いところが分かり、自分もそうしようと思った、参考になった」の島では、他の人の授業態度をコンプリメントしているのを聞いて、自分もがんばろうという授業動機が上がっていることが分かる。そして学生が他の人のよい授業態度を取り入れていこうとする行動に繋がっている。
こういった島を経て、最終的に「自分の授業態度の反省、改善」に繋がっていくと考えられる。この島には「自分の授業態度を振り返れた」、「自分の授業態度の見直しができた」、「自分の授業態度ができていないことを意識した」、「自分なりに授業態度を改善した」からなっている。「自分の授業態度を振り返れた」では、Solution-Focused Approach の考え方に則った授業改善のあり方が出てきている。「自分の授業態度の見直しができた」では、自分の授業態度について反省し、次回授業への目標を設定する態度が見られる。また「自分の授業態度ができていないことを意識した」では、自分の授業態度と比べて反省することもあるようである。そしてこれらの島が「自分なりに授業態度を改善した」の島に繋がり、WOWW アプローチを行うことにより、自らの授業態度を具体的に改善していることが分かる。
このようにさまざまな WOWW アプローチの効果が認められ、学生の授業態度の改善に役立っていることが分かる。
WOWW アプローチの問題点、改善点として「WOWW アプローチの評価できない点」の島、「改善に向けて」の島では今後の改善点が指摘された。
以上、WOWW アプローチを導入することにより、いくつかの効果があり、大学の授業においても導入する意義はあると考える。しかし、改善点も多くあり、今後、日本の大学生向けの WOWW アプローチを作成していくことが求められる。
上記の内容の詳細は今後、教育心理学教室 HP（ http://www.edupsych.ed.ehime-u.ac.jp/edupsych/index.html）にて発表する予定である。